

# 農業の活性化について

岡戸 稔議員

・質問 農業の活性化を図るために、農地の貸借を容易にするとか、米食推進のPRをするなどの生産者対策や消費者対策を講じるべきと考えますが、見解を伺いたい。

・答弁（経済環境部長）  
本市では、生産者対策として、羽生市水田農業ビジョン

を策定し、目標までの指標を設け、順次推進を図っているところである。

そのなかで、農地貸借の仲介事業として、意欲的な農業担い手に農地が流動化、集積することを目的に利用権設定事業を実施している。

過去三年間の実績は、平成

十五年度が三十四・五ヘクタール、平成十六年度が三十五・八ヘクタール、本年度が現時点で六十八・六ヘクタールと順調に伸びており、事業の効果が現れていると認識している。

また、消費者対策として、小・中学校の米飯給食に100%羽生産米を使用していることや農業まつりやコスモスフェスティバルなどのイベントにおいて生産者の協力を得て、おにぎりの試食会等を行うなど、羽生産米の積極的なPRを行っている。

地産地消のPRとしては、消費者と生産者の交流会として、平成十五年度には、保健センターを窓口とする消費者団体の食生活改善推進協議会のメンバーと、また、平成十六年度には、交通安全母の会のメンバーと一緒に、須影の選果場や村君のライスセンターなどの見学やキャッチャー生のレストランにおいて、羽生産農産物を食べていただきながら交流会を開催したところである。

なお、本年度は、ボランティア団体の皆さんを対象に計画中であり、安全で安心な羽生産農産物を再度見直していただくきっかけになる事業として、今後とも実施していきたいと考えている。

そのほかの事業としては、観光協会推奨品制度やインターネットを利用した取り組みを始めたところであり、今後は、有機農業や有機野菜の推進なども踏まえ、より効果的・効率的な方法で、農業の活性化を図っていききたい。

# 「道の駅」の整備計画について

森田 常夫議員

・質問 新郷地区に設置が予定されている「道の駅」の整備について、マーケティング調査の結果、運営主体の検討来年度における具体的な取り組み及びオープン時期について伺いたい。

・答弁（都市整備部長）  
本市では、「道の駅」の安

定した運営を図るために、道の駅地域振興施設検討委員会を設置し、利用者に提供するサービス内容や物品の調達、運営方法などを検討しているところである。

これまでの取り組みとして行った実態調査では、競合する施設である「道の駅」は、

東に大利根町、西に熊谷市、南に春日部市、杉戸町、吉見町、北に佐野市の各自治体に設置されているが、本市の周辺には立地していない状況である一方、農産物の直売所は、農協などの施設が周辺市町村に十箇所ほどあり、国道沿いで食事ができる店舗は、南では騎西町、北では明和町が最も多いことがわかった。

アンケート調査では、「道の駅」を利用したときに食べたいメニューは、うどんが一番多く、次にそば、ラーメン

という結果であり、手軽で短時間で食べられるものが求められていることがわかった。

来年度も今年度同様、検討委員会において検討を続けて



本年3月開通予定の新昭和橋

いききたい。

また、オープンの時期については、国の水防センターの完成が、平成十九年一月末の予定で、その後市が引き渡しを受けることになっているため、これに併わせて平成十八年度末もしくは平成十九年度初めとなる見込みである。

**その他の質問**

・市内循環バスの方向性について

・公有財産の有効活用について